

(5) 活用価値

歴史的景観資源は、都市や地域のイメージを高め、地域特性を育む価値を持っています。また、文化・コミュニティ施設や商業施設として活用されたり、市民の憩いの場となっているもの、さらに地域社会の中で文化振興、生涯学習、地域交流を促進し観光に寄与するなど、地域の活用価値として評価されます。

- 文化・コミュニティ施設として活用されている
- 商業施設として転用されている
- 市民の憩いの場となっている
- 地域ブランドとなっている
- 観光名所となっている など



レンガの館

(西区八軒1条西1丁目・昭和4年(1929年)築)

元野菜缶詰工場で、戦後工場移転後も貸倉庫や喫茶店として利用されていた。JR琴似駅北口の再開発事業で、集会施設として保存再生され、一部コミュニティ放送のスタジオにも活用されている。

札幌市資料館

(中央区大通西13丁目・大正15年(1926年)築)

大正15年建設の札幌控訴院を、昭和48年の移転に伴い転用。内部は、街づくりの歴史展示のほか、1階の旧民事法廷は「おおば比呂司記念室」、旧刑事法廷は復元展示、2階諸室は文化活動の貸室として市民に活用されている。





サッポロビール博物館・ビール園

(東区北7条東9丁目・明治23年(1890年)築)

札幌製糖工場を転用したビール工場時代が60年以上も続いた。その後も記念館、ビアホールに活用され、「サッポロビール園」として全国に知られる。周辺環境と協調した北海道らしい景観が、札幌のイメージアップにもつながっている。



鴨々川

(中央区)

豊平川から分流し中島公園西側をゆるやかに蛇行、すすきの南東部を経て創成川につながる。自然河川だが古くから人の手が加わり、鯉が放流され、散策や子供の水遊びなど、中島公園とともに緑豊かな憩いの場となっている。

岩佐ビル

(中央区北3条東5丁目・昭和25年(1950年)築)

札幌には珍しい中庭タイプのビルで、昭和25年第1期工事完成の翌年から貸しビル業に転換。飲食店やインテリアショップなどが入居し、向かいのサッポロファクトリーレンガ館と呼応し、レトロな雰囲気な街並みを形成している。



つきさぶ郷土資料館

(豊平区月寒東2条2丁目・昭和16年(1941年)築)

北部軍司令部司令官官舎として昭和16年に完成。戦後に北大学生寮となり、昭和60年から洋館部分を郷土資料館として活用している。外観・内部とも創建時の姿を保つれんが建物は、地元町内会が運営する月寒の歴史的シンボルである。